

中齋塾 東京フォーラム
平成 28 年度 第五回講話

平成 28 年 5 月 14 日
於 湯島聖堂

おはようございます。これからの社会はロボットがどんどん登場してくる。世の中が変わるという時代に入っているようですが、機械や人間はミスをするものであるという前提で動いておりますから、人はミスして当たり前。したがって 10 時を 11 時と言い変えてみたり、55 分と言ったところが 50 分になったり 45 分になったりは寛容の精神を持って受け取ればよいのだらうと思っています。

代表幹事の感想を聞いた瞬間に思ったのは、親しみという感情でした。私の場合ですと人を「さん」づけで呼びます。これは仕事をしている中では「さん」づけが良いですが、ちょっと親しくなってきた時は男性の場合は「君」づけで呼んだりします。女性は「さん」のままです。親しくなってくると、あだ名や呼び捨てにとなります。孔子の性格まではよく分かりません。孔子という人の性格は、根っこのところは複雑懷疑の部分があって、さらにもっと掘り下げると、すごく単純な人という感じがしています。

紹介書籍

『粗にして野だが卑ではない―石田禮助』城山三郎著 文春文庫

今日お持ちした本が『粗にして野だが卑ではない―石田禮助』です。この顔写真がユニークです。曲がったことが大嫌いみたいな顔の人だと思いますが、この人の生涯は面白いと思います。

最近、ウルグアイ元大統領ホセ・ムヒカさんの言葉を聞きましたが、中齋塾の言っていることと非常に似たことを言っていますし、実践をしている。とても良いと思います。今日は本 2 冊を回覧します。

忘れるといけないから最初に申し上げておきますと、熊本地震のことで木内顧問からメールがきました。木内顧問のお仲間である熊本県の宇土市議会議員で野口修一さんという方の

悲鳴を上げたメールが木内顧問のところに来ました。それで木内顧問から私宛にメールがきまして、これをずっと見ていて理事長と相談してみたら、やっぱり皆さんに回覧したほうがいいのではないかとりましたので、こちらも御一緒に回します。

先ほど猪瀬理事長がフォーラムの参加人数が少ない時は、塾長は濃い話をすると言っていました、何の濃い話をしようかなと思っています。私がしている内容のものを、ちょっと御紹介します。

ピリッときた人、またはこの人は面白いと思ったら調べます。その中で、その人の判断や原理原則は何かを調べます。

そういう視点で、今日は石田禮助さんを御紹介したいと思っています。皆様もピリッときた人が、過去・現在・未来。未来はまだ分かりませんが、でも未来はこういう人が出るとうまいと思えば良いです。自分の未来像でも良いです。また過去で亡くなっている人であれば、その人の一生を調べるとよいと思います。ただ調べる時にその人の人となり一生を調べたあとは、安岡正篤先生がよく言われている科白で「個人が皆同じことを言う。先人が何を勉強したかを勉強するのではなくて、その先人が求めた所を求めろ」と。どういう学問をしたか、その人が調べた後のカスをいちいち見るな。その人が求めたところを調べろということでございます。

さて、最初から濃い話をする前の前段階…こういう感覚いつもはないのですけれども、濃い話をする前段階として、いつもの恒例の質問をいたします。

恒例の質問

・今年に入ってから比較的、良い日が続いていると思う方はどうでしょう。

良い日悪い日を天秤にかけないでください。さもなくば拡大解釈して良い日だなど思う日が1日あれば、それを長く温めておけばいいでしょう。良い日があった、悪い日があったと天秤にかけていると疲れますから、悪い日はもう忘れてしまえばよい。良いことだけ覚えていけばいいでしょう。

今お話ししているホセ・ムヒカさんは、良い日がいっぱい続いていると思います。書いた物を見たりすると、12年間牢屋に放り込まれて最初の7年間は差し入れも駄目でしたから時々発狂しそうになった。マット1枚を差し入れてくれた時には天国にでも行った気持ちみたいなことが書いてありました。むき出しのコンクリートに放り込まれて、よくぞ生き抜いて、そういうことを考えつくようになったと感じます。母親は周りの人に「今は牢屋に入っているけれども、この子が牢屋から出たら、この国の大統領になる」と言っていた。それを聞いた新聞記者が記事にしていた。母親が亡くなり、本人が大統領になってか

ら母親がそう言っていたのかと後で感じたということです。人の一生は、どこでどう変わっていくのか分からないですね。

ホセ・ムヒカさんは中斎塾が言っていることと同じようなことを言っています。「人生は貰うことではなく、あげること。どんなに酷い状況にいても他人にあげられる何かがあります」と言う。それから裏表紙ですが、これを編集した人もよく考えて出しているなと感じますが「より良い生活とは、より多くの物を持つことではなく、より幸せになることです」と。これを意識して御覧ください。

脱線をしますと、猪瀬理事長が天風先生の話をちょっとしました。「色々なことがあるから人生は楽しい」と。ムヒカさんは12年間の獄中生活があるから、次の人生が開いてきたと感じました。人生を考える時に、石田禮助さんやホセ・ムヒカさんの人生、そういうところからおすと、猪瀬理事長が話された106歳の方の長生きの秘訣は「気にしないこと」と言いましたが、これはとても良い言葉だと思います。これを学者がいうと何と云うか。学者流にいうと論語の中にあると言います。

心が昇華していると市井に生きている人の科白と同じになるようです。

何度も申し上げますが「吾十有五にして学に志す」20代は何をしてもよいから何も言わない。「三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従えども矩を踰えず」と孔子は言った。そうすると70代で亡くなった孔子はいいけれど、今生きている80代、90代はどうしたらいいのかという科白が出てきます。

それについては日経新聞のコラムに宇野精一先生と諸橋徹二先生が期せずして、80代、90代はこれが良いといった言葉が紹介されています。

「将（おく）らず 迎えず 応じて 蔵せず」です。人生はこれですべからく生きるべきである。学者がこういうことを言うと、しかも90代の先生方がそういう言葉を残していると何となく有難く感じる。「将らず迎えず応じて蔵せず」と言うと、何となく分かったような、分からないような良い気分になってくる。学者のそういう科白も、麻薬みたいなものです。

さてそうすると「将らず迎えず応じて蔵せず」は、普通に言うと「将らず」は、過ぎ去ったことはいちいち気にしない。それからこれから起きるであろう事をくよくよ乗り越し苦勞はしない。「応じて蔵せず」は、一日一日精いっぱい生きて目の前に起きていることだけ一生懸命おやんなさい。過ぎたら忘れましょう。

先程の106歳の猪瀬さんの人生の先輩の方が言った「気にしないこと」と同じです。学者が一生懸命に勉強して、それなりの境地に到達をする。民間で一生懸命に仕事をして到達する境地もやはり同じものではないか。孔子も同じことを言っています。「学ばずといえども」って、一生懸命に本を読んで勉強をしていないと学者ではない、と人は言うけれども、あの人は人生の達人で学んでいる者である。したがって学者である、大学者であると言っても差し支えないということです。何も学問というのは、本で見て読む、必死になっ

て物を考えるだけではないということです。

事上磨練

そこでは事上磨練であるとまでは言わなかったけれども、一日一日を一生懸命に日々過ごして真面目に真っ直ぐ生きていけば同じところに到達する。だから学者の道を生きようが経営者の道を生きようが政治家の道を生きようが、真面目に一生懸命にやっていると、だいたい同じところに到達する。そうすると政治家のことを先生と言う阿呆。先生と言われてそっくり返っている阿呆は世の中いっぱいいます。

石田禮助が78歳の時に国鉄の総裁になり、国会で挨拶をする時に「国鉄がこれだけおかしくなったのは諸君らの責任もある」と言ったら、政治家は反発しましたが、一番反発したことが「諸君」と言われたこと。諸君と言われて頭にくるような人達はまだ出来ちゃいないと思いました。

良い日から脱線がちょっと広がってきましたが、ここで良い日とは、自分の心持ち次第で変わりますということです。

- ・今年に入ってから数か月ですが、比較的嘘はつかなかった。

先程の続きですが、石田禮助さんが国会に出掛けて色々と話をする中で「わしは絶対嘘はつかん」と、率直にものを言い、知らないことは知らないと言い、周りの人はハラハラし通しだった。「そういう答弁は止めてください」と、しょっちゅうメモが入るけど気にしない。ある時、田中角栄さんが「どんなメモが回ってきてるんだい」と聞いたら、こんなのだよって見せた。「発言は慎重に」と書かれているから「思っていることを言いたいように言えばいいじゃないか」と角栄さんが言うと「その通り」と言ったそうです。84歳で辞めましたが、84歳までの6年間は言いたいことを言い、そして最後まで議員のことを諸君ということは変わらなかった。間違っても議員を先生とは言わなかった。最後は追及していた野党から、あの爺さんはとてもいい爺さんだったから、一席設けて送り出したという話も残っています。とにかく嘘はつかぬという人生は、これは読んでいて痛快でした。その文庫は何回か読んでいます。

- ・今年に入って「有難う」と言い、「有難う」と言われたか。

石田禮助さんは、有難うとかなり言われたみたいですね。その一番のポイントはタバコと国鉄を引き合いに出してやったことが面白い。国会で話をする時に、国鉄の職員は人様の命を預かっている大変重い仕事であるが、タバコの巻きやと同じ賃金ではよろしくない。私はヘビースモーカーだが、タバコはむしろかえって命を害するじゃないか。それなのに同じ給料体系はおかしいと色々言う。そうすると専売公社から文句がくる。くるけれども普通に應對して普通に返していく。そういうことを色々やりあっている中で国鉄職員の賃金が上がった。それであの爺さんは我々のことをよく分かっていると国鉄の職員が、そちらに向かって有難うと言ったのかな、個別に有難うということだけではなく、公のところ

による効果、影響もかなりあるものだと石田禮助で感じました。

・今年に入ってから毎日何かしら健康法を続けている方。

ちなみにまた石田禮助さんですが、84歳の時に手の平がペタと床についたそうです。若い時に剣道をしていたそうです。80代はどのような体操かは分からないけれど、書いてあるものを読むと屈伸運動が20回、体のひねりが20回、剣道の素振りを300回と書いてあります。ですから自分なりの健康法を持っていることは、とても良いことです。私も健康法は続けております。

今やっている健康法は15年ほど同じことをしていますが、それにプラスして今年の3月18日から自転車に乗り始めたと前にも申し上げましたが、昨日で57日目。昨夜はこちらに泊まっていますから、今日は帰るつもりです。帰ったらまた自転車に乗ります。この間マッサージをやったら背中の中の筋肉がだいぶ盛り上がってきているとマッサージの方に言われました。足がカチンコチンかと思ったら、けっこう弾力がありますよと言われた。69歳になったので70代の体力をアップさせようと思って始めたわけです。69歳でこれぐらいですから、70代はじわじわ落ちてゆくだろうと思っているから今必死になってやっています。

これから日本の経済がおかしくなります。追いはぎ、泥棒、強盗、たくさん出て襲われることが十分ある。私がどこかで強盗に遭って、警備会社シムックスの創業者が路上で襲われて重傷を負いました…なんて格好悪いから、瞬間的にすぐ対応できるようにしようと思っています。今まで柔道・合気道をしていましたけれども、これから体力の衰えがくるからアップしておこうと思っています。そのためには一瞬にして相手を倒すほうが良いと思って、北関東フォーラムの山崎さんは空手の先生なので、教わりだしています。柔道で相手を倒す時10のエネルギーがあったら7か8は使いますね。合気道だと4くらいは使います。色々聞いて空手だと1か2でいくということですので空手も始めまして、けっこう役に立つと思いました。

・今年に入ってから自分磨きを自分なりに一生懸命していると思われる方。

自分磨きの方法は何でも良いです。どうやって磨いても良い。ただ切磋琢磨という言葉調べいただくとよいでしょう。自分磨きに関しては、事上磨錬と切磋琢磨この二つがよいでしょう。漢字も調べると今の辞典には出ていない字が使われています。

・昨夜寝る時に、明日以降を過去形でイメージして眠れた方。

今日はお一人です。石崎評議員がいるとすぐ手を挙げますが、あと竹岡会員もすぐ手も挙げるようになりました。

今回は恒例の質問に石田禮助さんを当てはめてみたら、けっこう面白かったので幾つか

御説明をいたしました。

人の一生を調べる。これは面白いぞと思った時に、どんどん調べたくなる。調べたくなると行ってみたいくなる。行ってみたら新しい発見がある。これは学問的にいけば陽明学の実践をするということです。何か自分がしたい、やりたい、そういう気持ちに火をつけさせてくれるのが、やっぱり学問だろうと思います。

「学問は体系化された常識である」木内信胤先生の科白です。日常生活に役に立たないようなものは学問とはいわないと思って結構でございます。ということで、次の〈論語の視点〉を話した後で、もうちょっと石田禮助さんを、また申し上げます。

論語の視点

酒井代表幹事は、この章句を読んでこられたなと思います。さらに読む回数を増やしていくと感情がこもってくる。感情がこもってくると良いと思います。

良いなと思ったものが忠久先生の漢詩です。持ち歩いて電車に乗っていても何となく気が向いた時にも読める。声を出さなくてもいいんです。気にいった章句があったら、ちらっちらっとするだけで2〜30回になります。2〜300回とは申しません。代表幹事はそういうことがパッとわかる素養、基盤があるから読む回数を2〜3回にするのは、もったいないと感じます。

〈憲門第十四〉

【一三】子路 成人を問う。子曰く、臧武仲の知、公綽の不欲、卞荘子の勇、冉求の藝の若くして、之を文るに礼楽を以てせば、亦 以て成人と為すべしと。曰く、今の成人は、何ぞ必ずしも然らん。利を見ては義を思い、危を見ては命を授け、久要に平生の言を忘れざるは、亦 以て成人と為すべしと。

「成人」は、これは完全な人格者と捉えればよい。子路がよくこんなことを問うものだと思う。孔子から見ると、子路は素晴らしい人物だけれども欠点もいっぱいある。その欠点があるがために実に良い人物になっているし、良い魅力を持っていると私は感じます。

子路が「完全な人格者はどういう者か」と聞いたら、孔子は単純に知識が豊富であるとか無欲恬淡であるとか、勇氣それから才能これを持っていることが必要だと。ただそれだけでいいのに相手が子路だからお手本にすべき人間を一人ずつ出した。孔子は相手に合わせて話します。これは別に誰でもいいと思います。たまたま「知」と言った時に孔子から見ればちょっと昔の人だけれども、臧武仲は博識であるし素晴らしい人物であると思っていたから臧武仲と言ったのでしょう。「不欲」は、無欲である。私は思いますけれども、無

欲といっても、やっぱり着る物は着る、寝る所もある、食べ物も食べる。でも、この無欲というのはホセ・ムヒカさんに通じていて良いなど、とても思います。子路はちょっと思慮分別が足りなくても無欲ではあるだろうし、勇氣は文句なくある。子路には冉求の才能は無理だと思いつつも教養を身につけなさいと。なんで子路に教養をつけさせるのかと思います。子路という人は偉大なる愛すべき人物です。だから無いものねだりではないけれど、ここまでやれば完璧だということを孔子が答えたのでしょうか。しかし、また続けて今の完全な人格者なんて、この場合の成人は完全な人格者という感じではなく、完全な人格者だと思われる人達、素晴らしいと思われる人達はどうかねと。

「利を見ては義を思い、危を見ては命を授け、久要に平生の言を忘れざるは、亦以て成人と為すべしと」これは子路に対して言っているわけですから、目の前に儲けの話、利益が出てきた時には正義を考え、それから主君に限らず誰かが危ない目にあっていたら自分の一身を顧みず助けようとする。

「久要に平生の言を忘れざるは」これは誰でも、いっぱいあるのではないのでしょうか。昔言ったことで、例えば「今度おごつてあげるね」とか言ったら、言っただけで忘れてしまう。言われた人はしっかりとよく覚えている。そういう事はございませんかというだけの話です。いずれにしても昔言った口約束をやっぱりメモしておくことは必要ですね。あとから色々しっぺ返しがきますから、自分は忘れていても相手は覚えていると子路にいます。昔の口約束を忘れないで実行することは、子路、お前にとって、とても必要なことだよと諭しております。

さてこれで論語を現代に置き換え自分に置き換えて、考えてみるということが肝心ですので、ここから何か想像できませんか？

比田井さん、「久要に平生の言を忘れざるは」で、自分ではなくてもよいですが、今の政治家でもいいですが、何か世界の政治家を眺めて何か感じるものはありますか？

比田井副理事長—難しい質問ですね。唐突に。

人生は想定外の連続でございますから、唐突の連続であります。例えば、現時点で広島にアメリカの大統領が行くということについては、どうでしょうね。

比田井副理事長—私から見ると、広島行きはオバマさんにしても最後は自分で任期をどう綺麗に飾るかでしょうね。極端に言ったらば原発を止めようなんて動きも無いでしょうから。最後はやっぱり政治家というのは自分の引退する間際は、どう綺麗に飾るかということでしょう。だいたい皆、失敗しますよね。オバマさんがそれをやったからといって最後を飾れるかどうかは別でございます。

そうですね。でもいずれにしても、政治家は口約束が多いこと。政治家も名を遂げた人達に、この「久要に平生の言を忘れざるは」について確認してみようかと感じます。

会員一でもプラハで核の廃絶を世界に作るというふうに宣言されました。あれがどっかいっちゃったなと思っていたら、ここで、またその炎が上がってきたなと感じます。

良いことですね、私もそう思います。良いことだと思うのですが、日本のマスコミはきちんとと言わない。最近ではニューズウィーク日本語版を読んでいますけれども、国民の風向きを見えていますね。言っても良いかなという流れ具合を感じて動いた。それで発表したら、今頃行くのは遅いという論調も出てきたようですが、行かないよりは行ったほうが良い。昔言ったことをもう忘れてしまったような感じが、またもう一度復活だから、それはとても良いことです。

論語を現代に置き換えると、政治家の言動をえぐり出してみれば、もう嫌になるぐらい出てくる。

また男性と女性ではちょっと違うみたいです。小此木さんは奥さんとお喋りする時に口喧嘩することもたまにはあるでしょう？口喧嘩する時に「昔お前はこう言ったじゃないか」なんて、20年前30年前の話を蒸し返すことがありますか？

小此木幹事ー私は無いのですが、女房の方がちょっと。

そうですね。どうもそれは男性女性の性別というのかな、男性の性（さが）女性の性というのがあるらしくて、色々な人達に話を聞くと昔の話で責めるのは女性の常のようでもありますので、これはもうしょうがないですね。淡々と受け入れることが良いと思います。ただその中に昔の約束を果たしたと言えれば良いのですが、果たしてないと言われ続けますから気をつけましょう。

時事評論

ニューズウィークに書いてある中で、いくつかピリピリときたものは「李克強首相が習近平の名前を読み間違えた」というのは、単純に読み方を間違えただけの話でしたら、それで終わります。もうひとつは国営新華社通信の文章で習近平を「最高指導者」と書くべきところを「最後の指導者」と間違えている。これもそれだけ見れば、単純なミスかと思いますが、単純なミスが習近平さんに関していくつか出てきている。これが公の形で出ていることは一体何を表しているのかと感じます。中国という国家の中で何かがあるから、

これは単純なミスだと終わりにしてしまってもよいものかどうかと考えます。新聞記事で出す時にはチェックして校正をします。そうすると意図的に出している人がいるのかと思う。

日本の場合は、歴代の総理大臣のボディーガードですが、細川元首相の時から変わりました。

私は北方領土全国大会に中曽根さんの時に初めて行き、その後毎年行っています。その頃は、暗殺されても構わないという内容のボディーガードでした。途中から明らかに暗殺が窺われるボディーガードに変わりました。今はもう暗殺されるのが当たり前みたいな感じになっていて、なおかつボディーガードも命の危険を感じているふうです。

この間行ったら、薄い鉄板みたいな物を持っていました。SPは檀上に6人かな、目立った形で立っている。SPの動き方も一頃と変わっています。

今度、オバマ大統領が来る時のセキュリティをよく調べておけばいいと思いますが、世界各国でテロが頻発していますから、増員は新聞発表だけではないと思います。大統領の血液を大量に採って、来日してから帰国するまでの間、本人が通る大きい病院には血液が運ばれているはず。最近では自爆テロですから、自爆対策は難しいですね。日本で自爆したら恰好の宣伝材料になるし、オバマさんが死ななくても怪我をすれば、またISに行く若者が増えるのではないかという気がします。だから今回の伊勢志摩サミットは、表面的な物とは違う動きをするのだと思います。表面に出ているセキュリティはこんなもので、隠れているセキュリティはかなりあります。

氷山の一角

学者も経営者も政治家も、孔子の時代から同じことを言っています。表面に見えている氷山は目で見てわかるけれども、その何倍も何十倍も深く本体は海の中に入っている。

学問も学び続けたら、氷山の一角といわれるような内容の学問、学者になってくでしょう。経営者も同じです。

実体験ですが、色々調べると表面に出ている話を裏づける物の知識が増えるから、段々形がついてきたと自分では思っています。これが経営者として修羅場をくぐればくぐるほど氷山の一角を支える水面下、見えない部分がどんどん膨らんできます。引き出しが増えます。経営者としては修羅場をどれだけくぐってくるかだと思います。学者はちょっと違う。政治家は全部こうだとは言いませんけれども、最近の政治家を見ていて、普通は下にも氷があるから、氷の一角が上に出ているけど、今は氷山全部を上に出して、ころっとひっくり返ったら氷山が逆転するのではと思うような政治家がいる気がします。

今、意識的に、学者だ経営者だ政治家だと言ったのは、世の中は全部お金で判断し、お金で動いている。これも世の中ですが、これはもうどなたも行き詰っていると思っているでしょう。一体この金という化け物はいつになったら止めを刺されるのかという状況だと思っています。

来週、福島県郡山市に行きます。郡山市の隣に田村市があります。田村市で除染組合の組合長をしている人とは昔から仲が良いのですが、その人と話すと自然と原発の話になります。補償金を1億円ぐらい貰うのは当たり前で、それだけ貰ってしまうと人間性が壊れる。何をどうしていいか分からなくて、ついつい使い始めて、身も心もボロボロにする人が多い。それが現実だと言います。だから福島フォーラムを立ち上げることによって、原発の現状を、今後の行く末を見たいと思っています。それが大きな動機になっています。

何度も申し上げていますが、お金をマクロで見ると人類が発明した最大の物ですが、これによって人間は汚染されてしまったと思います。文明は進んだけれども汚染されました。これからは、このお金というものにどう向き合っていくのか。この物の考え方が、これからの我々の人生にとって、ものすごく大きな意味を持つと思います。

お金というものの考え方で、根底から考え、お金が要らない生活をやりだしている人が出てきています。もう大勢の方々が、金は不要という行動に手をつけてよい時期にきたと思っています。

ちなみに先程の石田禮助さんは、明治19年生まれ数えて93歳まで生きました。明治・大正・昭和を生きた人。ある程度の年齢まで仕事をしたら、あとはパブリックサービスだ。社会に対して恩返し of 時代に入ったら、お金を貰って仕事をするべきではない。今まで蓄えた物を出していく人生で、知恵も財もというふうな人生をおくりました。そして農園をやりたいと思って、農園を始めました。日本に食べ物がなくなった時に、その農園で作った物を皆に配ってあげたという記述がちょっとありました。

私が自分で野菜を作るとしたら、あと何年ぐらいだ。今の体力でやろうと思ったら、野菜作りはできますよね。毎日そんなに重労働することはないです。家庭菜園でちょっとでもいいから始められると良い。それで5年間続けていると、何かしらのものが出来ると思います。少なくとも今年から何でもいいですが、ベランダでも何でもいいですから何か野菜作り、食べ物づくり、ちょっとやれば感覚が違ってくると思います。

日本の中で自給自足ができる人、地域、それがとても貴重になる。これは本当にお勧めをします。私も、できるだけお芋はやる。そう思っております。

テーマ

<本質・大局・歴史—判断の三原則>

「判断の三原則」で考えれば、お金が世の中を牛耳っていますから、何でお金がこんなに広がったのか。何でお金のいうことを聞かなきゃいけないのか。ごく一握りの超富裕層

の人達がもっと欲しい、もっと欲しいとするから、グローバリズムみたいなことをしてしまっただけでしょう。アメリカの考え方が正しいと勝手に思い込んで、勝手に世の中全部を自分流の流儀を押しつけて、世の中を席卷している。一握りのアメリカの富裕層がアメリカの格差社会をおし進めているということです。ホセ・ムヒカさんの科白を見ていて、そうだなと思いました。

会社をつくった時に、売上上げろ・利益出せと右肩上がりでやっていったら、どこかで必ず萎みます。そんなに企業が全部儲かるわけではないし、大きくなり続けるわけがない。どこかで必ず落ちる。そういう仕組みで資本主義はできています。お金という物とまともに向き合って、お金が無くとも生きていけるようにお互い我が人生を送りたいものです。5年間はちょっと長いと思うので、3年ぐらいで何か出来ると良いなと思っています。これからの3年後、5年後、7年後かな、危ないですよ。冷や冷やしています。今の世の中は綱渡りです。ある日突然とんでもない事が起きたというふうに見えます。

せつかくですから石田禮助さんのことを、もうちょっと言っておいたほうがいいですね。石田禮助さんは色々な資料があります。やっぱり腹に哲学のある人間は動きが違うという気がします。だから時々、自分で自分自答をするといいと思います。

我に哲学あるやなしや。哲学とは、私はこの一生をどのように生きるかということを考えるのが哲学です。

今日のお話の最後のまとめは、この科白を覚えていただくと良いと思う。「租にして野だが卑ではない」よい言葉の一つだと感じますので、時々、御自分の人生と照らし合わせしてみると良いでしょう。

終了時間になりました。どうも有難うございました。